

大衡小



これがイチオシ

「ランド」最高の遊び場

大衡小学校には「フェアランド」という名の小さな森があります。夏にはカブトムシやクワガタムシが集まり、秋にはドングリやクリの実がなります。ランドには田んぼも備え、田植えや稲刈りの体験学習をします。特に田植えは転びやすくて大変だったけど頑張りました。

ランドの奥にシイタケの菌糸を埋めた丸太を置いて育てています。木が多く、地面が木陰のため、育成にぴったりの場所です。自然豊かなランドは最高の遊び場であり、学びの場です。

学校名 大衡村立大衡小学校
所在地 大衡村大衡平林13
創立 1974年
電話 022(345)2424
校長 阿部 勝
児童数 337人

ベッド作り 毛布で担架も

大衡小学校の5年生は、総合的な学習の時間で防災について学んでいます。校内で1月に開かれた防災教室に参加。大衡村役場の職員が講師となりました。

最初は、過去に発生した災害を映像などで確認しました。地震だけでなく、豪雨による浸水被害などを理解できました。次は、防災に関する「〇×クイズ」。難しい問題もあつたけれど、防災知識をきちんと身に付けました。

段ボールベッド作りも体験。災害時の避難所で使用するためのベッドを、グループごとに段ボールで作りました。すぐに壊れるのではないかと考えたけれど、結構頑丈です。1人では難しいけれどグループで協力して完成させました。

最後は防災サバイバルグッズの学習です。特に毛布など身近な物で担架を作る方法を実際に学べて良かったです。

防災教室では多くのことを学びました。いざに備え、きちんと対応できるように準備したいと思っています。



編集委員 伊藤凶南、富永瑛斗、鳥居大峻、松岡奏来、新谷結衣乃（6年）
指導教員 張間広基、西條佳那

わが校わがまち スクール通信



今回は 津谷小（気仙沼市）川前小（仙台市）

米作りやネギ収穫を体験

鳴瀬小学校は、全校児童50人以下の小規模校です。児童同士や先生との距離が近く、学年を超えた活動が盛んなことが特色です。地域との関わりを大切にし、学年ごとにさまざまな体験学習活動を行っています。

6年生は、地域のネギ農家に協力してもらい、学校の畑で育てたネギを地元スーパーで販売しました。収穫したネギの皮むきからパッケージまで児童が担い、販売当日は開始約10分で完売するほど好評でした。

5年生は、地域の田んぼで昔ながらの手作業と今のスマート農業による米作りを体験。加美町探究フェスティバルで2種類の米作りを通して感じたことを発表しました。

4年生は、世界の難民の子どもたちについて学び、校内や町内各所で子ども服の寄付を呼びかけました。結果、段ボール24箱分を集め、支援することができました。

鳴瀬小では、こうした地域と共に学ぶ活動を大切に、よりよい町にしていけるように、これからも下級生へ引き継いでいきます。



編集委員 田村歩愛、今野龍空翔、浅野優馬、石山彩、伊藤庵、伊藤蒼空、遠藤康光（3月卒業）指導教員 鈴木亜依莉

鳴瀬小



これがイチオシ

面白い発見 隠れ文字も

鳴瀬小学校のイチオシは、体育館の外壁にある模様です。一見すると縄文土器に描かれたデザインにしか見えなかったのですが、よく見ると隠れ文字で「ナルセ」と書かれていることが分かりました。

知った後に見ると、今までと違って見えるのが面白いです。特別教室へ向かう階段の手すりが、のこぎりの形になっている所もお気に入りです。毎日通る場所に工夫や遊び心があり、学校内を歩くのが楽しい。学校は知れば知るほど面白い発見があります。

学校名 加美町立鳴瀬小学校
所在地 加美町四日市場舟橋250
創立 1873年
電話 0229(63)2055
校長 横山 義則
児童数 47人

長年ホタルの学習を続ける仙台市青葉区の旭丘小（児童385人）で5月27日、ホタルの生態を学ぶ総合学習の授業があった。児童はホタルの生存競争の厳しさや、身近な自然環境への関心を深めた。

授業を受けたのは、昨年からホタルについて学んでいる4年生70人。講師の市民団体「青葉山ホタルの会」の兵庫淑子会長（80）から「世界のホタルのゲンジボタルが1番明るく輝く」「土や水、緑、餌など自然の良い条件が一つ欠けても生息できなかった。（5月30日朝刊より）」

ホタルの生態じっくり 仙台・旭丘小 自然環境を学ぶ



手のひらにホタルの幼虫を載せて観察する子どもたち

子どもとホタルの生態を学ぶ総合学習の授業があった。児童はホタルの生存競争の厳しさや、身近な自然環境への関心を深めた。

授業を受けたのは、昨年からホタルについて学んでいる4年生70人。講師の市民団体「青葉山ホタルの会」の兵庫淑子会長（80）から「世界のホタルのゲンジボタルが1番明るく輝く」「土や水、緑、餌など自然の良い条件が一つ欠けても生息できなかった。（5月30日朝刊より）」

カレーライスを一から作る 前田 亜紀 著 ポプラ社

本のプロ 推しの1冊

命について考えてみよう

「カレーライスを作って」と言われたらどうしますか。お店で材料を買い、家に帰って調理した後、盛りつけて「いただきます」。これは普通の作り方です。

この本のカレーの作り方は全く違います。野菜、コメ、スパイス、肉、塩などの材料から器、スプーンまで、全てを「一から」作ります。挑戦したのは武蔵野美術大の学生たちで、カレーを食べるまでになんと9か月もかかりました。

農作業や食用動物の飼育経験がない学生たちが、いろいろな体験をして作るカレーライスはどうなるのでしょうか。

私たちの住む日本では、食べ物と動植物の命を結び付けることが難しいです。このカレーライス作りを計画した関野吉晴さんは探検家でもあります。関野さんは自分で育てた命を食べる経験を通して、学生たちに何か感じてほしかったのではないのでしょうか。

普段の生活では、なかなか意識しない命について考えさせられます。小学校高学年から。（広瀬図書館 佐藤篤子）